

令和 6 年度 福島大学基金研究推進事業助成による成果報告書

令和 7 年 3 月 7 日

学 長 殿

所属部局・職名

(所属・学年) 地域デザイン科学研究科人間文化専攻  
人間発達心理コース 修士 1 年

申 請 者 名

(学会参加助成の場合は参加者名)

岸野 愛菜

<p>助成の区分 (該当するものに○)</p>	<p>学会参加助成・学術出版助成・学術論文掲載料等助成</p>
<p>事業名</p>	<p>日本発達心理学会第 36 回大会</p>
<p>成果の概要</p>	<p>【会期】 令和 7 年 3 月 4 日(火)～3 月 6 日(木)                  【場所】 明星大学(現地発表)                  【発表形式】 ポスター発表                  【発表時間】 令和 7 年 3 月 4 日(火) 13 時～14 時                  【発表タイトル】 青年期における特定の他者がコミュニケーションの変化に与える影響                  【ポスター番号】 4PM1-P-PS27                  【発表者】 ○岸野愛菜(福島大学大学院)</p> <p>【発表内容】 青年期はそれ以前に比べて人間関係が拡大し、その対象は家族中心のものから仲間集団が中心のものへと移行していく。そのなかで、特定の他者の存在が青年に多くの影響を与えていることはこれまでの研究で繰り返し指摘されてきた。本研究では、その影響が青年のコミュニケーションスタイルの変化にも及んでいる可能性が示唆された。青年期に比較的長いスパンで関係性を築くような他者の存在は、青年のコミュニケーションスタイルの幅を広げる一方で、相手に固執する態度をもつことは、自身らしさの肯定に繋がる反面、コミュニケーションスタイルの幅の広がりを生みにくくする可能性があることが分かった。</p> <p>【成果】 今回の発表では、本研究に対し様々な先生方、院生に興味をもっていただき、活発な質疑応答を展開することができた。そのなかで自身になかった着眼点や発想を得る機会もあった。近しい研究内容や研究手法の先生方との交流の場面もあり、的確なご指導やアドバイスをいただくことができた。今回の学会で得られた知見は、今後の研究に生かしていきたい。</p>